

初秋を彩る華やかな紅色！

かわら版

小石川後樂園

第187号

令和8年
9月5日
発行

お得な年間パスポート

- 小石川後樂園用●
- 一般:1,200円
- 65歳以上:600円
- 都立9庭園用
- 一般:4,000円
- 65歳以上:2,000円

公式X(旧Twitter)やHPでは、園内の開花状況や見どころ、催事情報などを、随時ご案内中！

X(旧Twitter) @korakuenGarden



HP「公園へ行こう！」



9庭園Instagram



《昨年九月下旬・田んぼ周辺の様子》



唐門の『扁額(へんがく)』

江戸時代、水戸藩の屋敷は、現在の東京ドームがあるあたりに位置していました。

小さな池のある内庭が、その屋敷の書院庭園(私的空間)、大きな池“大泉水”を囲むように造られた部分が『後樂園』と呼ばれ、お客さまをおもてなしする公的空間としても使われました。

その間にある唐門は、私的空間と公的空間を分ける役割も持っています。

当時の唐門は、残念ながら戦災で焼失してしまいましたが、2020年(令和2年)、古い写真や絵図をもとに、現在の唐門が復元されました。

当園を完成させた水戸徳川家二代藩主・光圀(みつくに)は、明朝遺臣の朱舜水(しゅしゅんすい)を招き、師と仰ぎ、作庭にあたっても、意見を取り入れています。『後樂園』の名前もそのひとつ。中国の古い書物「岳陽楼記」に書かれた“天下の憂いに先だって憂い天下の楽しみに後れて楽しむ”から採られています。

唐門の正面上に掲げられた『後樂園』の扁額(へんがく)も、朱舜水の書いたものが復元されました。

大きな文字『後樂園』の横には

【明舜水朱之瑜頓首題】(明の国人、舜水、姓は朱、名は之瑜が謹んで文字を捧げます)

と、添えられています。

この扁額が完成したのは1669年(寛文9年)ごろと推定されていますが、その時期、すでに、朱舜水のいた明朝は滅び、清朝の時代になっていました。明の国人だった朱舜水が、祖国への思いも込めて、扁額に“明”の字を入れたとも考えられています。

唐門の彫刻は、富山県南砺市にある井波彫刻共同組合で復元製作されました。正面・扁額の下に彫刻は、中央に光圀の愛したウメの花、左右には、中国南方から飛来する三光鳥(さんこうちょう)がデザインされています。この三光鳥は、光圀が中国出身の朱舜水へ抱いた敬意の念を表現したものだと想定されているようです。

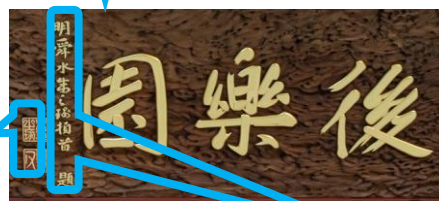
約400年の歴史の中に紡がれた光圀や、朱舜水、代々の藩主たち、さらにはその周りの人々の物語、立ち止まって想像して、また、散策して。素敵な秋の一日を、初秋の園内で過ごしてみませんか？

9月に入り、朝晩はだいぶ、秋の気配を感じるようになりました。「暑いね〜っ!」の時期も、あと少しでしょうか？

さて、当園“初秋の風物詩”といえば、園内各所を紅く染めるヒガンバナ(彼岸花)(マンジュシャゲ(曼珠沙華)とも)、実り始めるイネを守るために、小学生が作ってくれる案山子(かかし)たち。都心では、あまりご覧いただけない田園風景を、ぜひ、どうぞ！(ヒガンバナの開花状況は、当園公式X(旧Twitter)ホームページ、お電話でご案内をします)



【落款】



【落款(らっかん)】とは正式名称は「落成款識(らくせいかんし)」。書道や日本画などが完成した際、作者が署名や印を押して完成を示すもの。また、その署名や印そのもの。

●唐門の彫刻には、ウメの花や三光鳥のほか、ボタンの花、金鶏(きんけい)なども施されています。ぜひ、お近くで、職人技を見上げてみてください。

明舜水朱之瑜頓首題

明舜水朱之瑜頓首題

(参考：特別史跡・特別名勝小石川後樂園唐門復元工事報告書)

かわら版についてのお問い合わせは 小石川後樂園サービスセンター 03(3811)3015

広報係 (協会の事業全般に関するお問い合わせ) TEL 03(3232)3011 ※8:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除く) 指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会